

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501640		
法人名	ケア・サポート青い鳥有限会社		
事業所名	グループホーム青い鳥		
所在地	三重県津市高野尾町3006-202		
自己評価作成日	平成21年11月13日	評価結果市町村提出日	平成22年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501640&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成21年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大型団地の中の、公園近くに建つ洋風住宅の当事業所は、理念に掲げる通りとにかく「笑い」の多いホームである。この点は来訪者や他事業所ケアマネージャー等からも評価を頂いている。併設のデイサービス利用者との交流も多く、同年代の顔なじみができ、入居者様お一人お一人の表情が明るい。また、地域住民の職員も増えてきており、地域のホームに対する認識や理解も少しずつではあるが得られている。今後とも地域の中でその人らしい暮らしを穏やかに送っていただけるよう、質の高いホーム作りに邁進していこうと職員の気持ちも統一している。昨年一年間は機能訓練やボランティアの受け入れ、レクリエーション企画等に力を入れて心身機能維持に努めて社会交流が途切れないことを目標に運営を心掛けた。今後はその時の状況に応じた柔軟な対応ができるように努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービス青い鳥Ⅱが開設され、併設のデイサービス青い鳥の利用者がそちらに移ったが、グループホーム利用者との交流も継続している。居室部分は2階にあるが、エレベーターで行き来ができ、2階の廊下にはモニターとセンサーが設置され、利用者の安全を常に観察できる環境となっている。中国故事の虎溪三笑を基に、オリジナルの「四笑」を理念として掲げ、利用者の「笑い」を引き出す働きかけを、全職員で取り組んでいる。もっと地域住民にこの事業所を見てほしいと、ボランティアや見学者を積極的に受け入れ、今後は事業所の月刊誌を地域へ配布したり、認知症の啓発活動に取り組んでいくことを検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の笑顔」「家族様の笑顔」「地域・社会の笑顔」「スタッフの笑顔」の四笑を理念に掲げ、利用者を取り囲む環境が、利用者にとって常に最良の状態であるように努めている。	利用者の快適な生活には笑顔が一番大事であるとして、理念に「四笑」を掲げ玄関、ホールに掲示している。1日1回は利用者一人ひとりに、全職員が必ず笑いを誘うような働きかけを行うように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草刈や公園清掃など、できる限り事業所として参加し、常に地域の一員としての自覚を持っている。また、地域での敬老会などにも招かれ、利用者と共に参加し、交流を図ることができている。	自治会に加入し、代表者が地区の民生委員を務め、今年で3年目となる。積極的に地域住民との繋がりを持ち、認知症ケアの理解の啓発活動につとめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に少しでも認知症についての理解が広まるよう、大学生の介護体験や中学生の職場体験などの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員や民生委員などに参加いただき、サービスについての状況報告や質疑応答を通じて、サービス向上に活かしている。	今年は2月(地域包括センター職員)、5月(ボランティア)、10月(民生委員)参加の3回開催。毎回、市職員への案内を出しているが、参加の実現には至らない。	2ヶ月に1回開催されることが望まれる。構成メンバーに利用者、利用者家族、地域住民の代表、市職員又は地域包括センター職員の参加を検討され、サービスの向上に具体的に活かしていただくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が交替したこともあり、業務のなかで不明な点については頻りに市役所担当者に連絡をとり、さまざまなアドバイスを頂いている。	市職員とは、積極的に連絡を取り、気軽に相談したり情報提供を受け、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のミーティングや全体会議で議題に取り上げ、身体拘束に対する職員の共有認識を図っている。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」はプリントして全職員に配布し、事業所内に掲示している。	職員全体で身体拘束による弊害を十分理解し、自分がされて嫌なことは、利用者に対しても行わないよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて職員の意識レベルの向上に取り組んでいる。また、掲示物やマニュアルを作成して理解や実行の浸透に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者のうち一名が成年後見制度をご利用されており、制度について職員に説明を行い、今後の必要性についても話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を見ていただきながら丁寧に説明を行い利用者や家族の不安や疑問がないよう心掛けている。また、医療連携や身体状況悪化の場合の対応や方針も、日頃より密に連絡をとって相談を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見などは介護記録に残し、家族の意見は業務日誌に記録することによって申し送りで職員に伝える体制を整え、運営に反映させるようにしている。	家族の面会時に意見や要望を聞いたり、何かあれば家族に電話をかけて、意見を求める機会を設けている。家族からの意見や要望は、職員間で話し合い反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を設置し職員も匿名で意見できるような体制をとっている。また、全体会議では全職員一人一人が発言できる時間を設けている。そこから吸い上げられる意見や提案は、できる限り取り入れる方針で運営している。	毎日の申し送りや毎月の会議の中で、活発な意見交換がある。職員からの業務改善提案があれば、「まずは実行してみよう」という方針で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、受験料やその他の支援を行っている。また、職能によって手当を分けたり、ボーナス3回支給を実行して向上心のある職員の意識アップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修にはできる限り交替で参加できるよう配慮し、必ず全体会議で発表し、職員全体のレベルアップに繋げて行く努力をしている。また、研修費用は会社が全額負担し、勤務体制も優遇するなど積極的な参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などへの出席を通じて、他事業所の意見や経験を取り入れている。また、近所のグループホームとの交流を図り、サービスの質の向上を図っている。また、地域包括職員の訪問も月一回以上いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用申込の相談時には、本人、家族、担当ケアマネ、主治医等との面談を行うよう心掛け、細かいより多くの情報を得るよう努めている。そのうえで本人の話を傾聴し、受容する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族のご苦勞をねぎらい、共感し、何でも話せる雰囲気づくりを心掛け、時間をかけて信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今どのようなサービスが適切なのを見極め、入所拒否のある利用者に対しては、時にはデイサービス、ショートステイ、ホームヘルパー等の利用も勧めて、他事業所との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過介護にならないよう、できることはやってもらい、日々の暮らしを共に作り上げていくように心掛け、喜怒哀楽を共感することによって信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族は特別な存在であり、時には家族の支援が必要であることを理解していただき、積極的な協力をいただけるような関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの面会者の訪問や家族同伴での外食や墓参り、実家の仏壇へのお参りなど、これまでの生活ができるだけ継続できるよう支援している。	友人が面会に来たり、家族と定期的に外食に行くなど、継続的な交流が図られるように支援している。疎遠になっている家族には、職員から働きかけを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士の席配置を考えたり、みんなで楽しく過ごす時間をつくり、トラブルが起きたときには職員が調整役に入って早急に解決し、穏やかムード作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ退所帰還した利用者には、併設デイサービスの利用を勧めるなど関係を維持するよう努めている。また、入院のため退所された家族への相談や支援もできる限り行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常の会話の中での希望や意向を聞き漏らすことなく生活記録に書きとめ、職員への周知や全体会議での議題として取り上げ、できる限り本人の思いに添えるよう努めている。	介護記録に利用者との会話(態度、表情、職員が返した言葉など)を、そのままの言葉で細かく記録している。そのため、ひとりひとりの利用者に合った声かけや状況把握ができ、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握は本人、家族、知人等に折につけ聞き取りを行い、新しい情報を収集して、職員全員が共有できるよう心掛け、本人理解に結びつける努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれのペースや心理状態、残存能力を日々の記録に書きとめ、総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は職員全員でアセスメントを行い、本人、家族等の意見も取り入れ、会議で意見交換をして作成している。また、定期的に状態の変化に応じて随時検討見直しを行っている。	ケア会議では、利用者や家族の意向や要望を取り入れ、3ヶ月に1回モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。また、状態が変化した場合には、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにはバイタル、食事、排泄等の記録及び心理状態を話し言葉で詳細に記録し、朝夕の申し送りで職員間の情報共有を徹底しており、介護計画にも反映させている。特変があった場合には、申し送り帳を利用し、全員が読むシステムを作り、情報を共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「子供の結婚式に祖母を出席させたい」という家族の要望で職員が付き添い、介助を行いお孫さんの結婚式に列席されるなど、本人や家族の希望に臨機応変に支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れも積極的に行い、警察、消防等とも日頃から連携を図っている。また、代表者が地域の民生委員となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じて柔軟に対応している。職員が通院介助をする場合は、必要に応じて家族への報告を行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、受診に家族が行けない場合は、職員が付き添い支援をしている。突発的な受診が必要な場合には、職員が受診支援をして、家族へ状態報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師に日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。また、介護職との連絡ノートを作成し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提出し、お見舞いも実行して家族や医療機関との意見交換を繰り返し行い、早期退院に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応は、医療機関や家族と密に連絡を図り対応している。できること、できないことの見極めや説明も行い、常日頃より職員全員が共有できる情報交換を行っている。看取りの指針は文書で説明し、同意の署名捺印を頂いている。	契約時に、継続的な事業所内での医療行為ができないことを利用者、家族に文書にて説明している。医療行為が必要な場合には、病院の紹介を行うなど適切な治療が受けられるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の応急手当の勉強会に一部の職員が参加し訓練を行った。また、緊急時のマニュアルを整備してあるが、全ての職員の習得はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に消防計画の作成、年2回の避難訓練を行っている。また、緊急災害時の要支援者の名簿を提出したり、地域での防災会議にも参加し協力体制を築くよう努めている。	今年5月、10月に避難訓練を実施。消火器の使用方法やビデオでの研修に利用者、職員が参加。同じ団地内や近隣に職員が在住しており、緊急時の連絡体制も強化している。また、警備会社での火災対策も検討中である。	地域住民も一緒に参加する訓練や夜間を想定した防災避難訓練も今後はお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導時の声かけはさりげなく行い、利用者の誇りやプライバシーを尊重する関わり方の徹底を図るよう職員間で意思統一を図っている。	利用者間でトラブルが発生するような場面では、職員が調整役となっている。利用者に対しての言葉遣いにも配慮し、月間目標に掲げたり、代表者がお手本となり、職員の指導にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り職員の押し付けは避け、複数の選択肢を提案したりして、自己決定できる場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の一日の過ごし方は作成してあるが、その時の本人の気持ちを尊重した個別対応に努めている。しかし、規則正しい生活リズムも心身の機能維持には重要と判断し、個人ペースに合わせると機能低下が明らかと思われる場合は毎日の日課の機能訓練等は極力参加を誘導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容が月一回あり、本人や家族の意向でメニューを選択いただいている。また、長年愛用されている化粧品なども家族に支援いただき継続して使用されている方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残存能力を見極め、できる限り食事の準備から後片付けまで、職員と利用者が関わりながら、共に楽しむようにしている。	一人ひとりの利用者に合わせて、準備、調理、片付け、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にやっている。年に数回は、外食でお寿司を食べたり、ケーキセットなどを食べに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎回チェック表に記録して職員間で情報を共有している。必要に応じて看護師や知人の栄養士の助言も受けている。また、毎回完食できるように見守りや声かけ、食器の工夫や一部介助も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後、一日二回の歯みがきと昼食後のうがいの誘導を行い、一人一人の能力に応じて見守りや声かけ、介助を行っている。夕食後には義歯を消毒するため一晩お預かりするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを記録し、把握して、定期的にトイレ誘導する利用者を含め、個別対応を図っている。時に医師との連携のもと、薬剤利用も行って便秘による悪影響を防止している。	リハパンツ8名、布パンツ1名。夜間のオムツ使用は1名。入院中にオムツ使用となり、退院後1ヵ月で適切なトイレ誘導によりオムツがはずれたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材には、野菜を多く摂取できるよう心がけ、適切な水分摂取量の把握に努め、利用者の希望により乳製品を毎日摂取して頂いている。また、医師と相談のうえ下剤や整腸剤を服用している方もみえ、便秘による悪影響を防止している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、入浴日は決めてあるが、本人の意向や汚染の状況によってはその都度個別に対応している。	火曜、金曜を入浴日と設定しているが、希望に合わせて他の曜日や夜間にも対応している。また、入浴拒否の利用者には、その利用者に合わせた声かけを行い、入浴の心地良さを感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるため、日中のレクリエーションなどには参加を促しているが、本人の意思を尊重し、休息もとって頂いている。また、睡眠がとれないようであれば、添い寝をしたり、他者との同室睡眠を促して安眠支援に努めている。薬剤利用は専門医との連携を重視し、夜間の不穏改善や安眠支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量の変更は申し送り帳に記録し全職員への周知を徹底している。服薬時には飲み込むまで職員が見届けるようにしており、ミスがあればヒヤリ・ハットに記載して職員の意識を高めている。また、連携クリニックの薬剤師とも連絡を取りアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活の中で得意なことを発見し、さまざまな役割を担って頂いている。「お花の師匠」「料理長」「カラオケ女王」「ピアノ講師」「世話役」など個性豊かに活躍されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日や本人の気分、希望にあわせて散歩やドライブ、福祉センターなどへ出かけている。その際には歌詞カードやおやつ、お弁当を持参することが多い。	散歩やドライブなど外出支援も積極的に行っている。天候の良い日には、おにぎりを作って外出することもある。家族からの要望により、孫の結婚式に職員が付き添い一緒に参列するなど、本人、家族に合わせた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で少額のお金を持ってみえる利用者もいる。また、必要に応じて、外出時には預かっているお金を能力に応じて渡し、買い物の楽しみを味わって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在毎晩のように家族へ電話をかけられる利用者もみえ、手紙の支援とあわせて本人の希望に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に淡い色調の壁紙を使用し、木を感じさせる家具を設置するなど、落ち着ける空間作りを心掛けている。リビングはオープンキッチンで、調理中の匂いや音が身近で五感への働きかけもできている。また、室内には年中花が飾られており、季節感が味わえる環境である。	玄関には、たくさんのアートフラワーや生花が飾られ、訪れた人を迎えてくれる。食堂兼居間は南向きで日当たりも良く、掃除も徹底されて、清潔感のある空間である。また、居室がある2階の廊下の壁には青い鳥が描かれ、利用者や訪れた人を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにはソファが設置してあり、花を見ながらくつろげるようになっている。また、テラスにはガーデンテーブルセットが置いてあり、天気の良い日には気の合う同士でお茶を飲んだりもされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年和室で暮らしてみえた利用者の居室は畳を持ち込んでいる。家具もできるだけ使い慣れたもの、また家族写真や身の回り品などもなじみのものを持ち込んで頂くよう家族にもお勧めし、居心地よく過ごせるよう努めている。	畳生活の利用者の方もおり、使い慣れた箆笥やテレビなど、その人に合わせた居室づくりをしている。各居室は、それぞれ違った花模様のクロスが貼られ、華やかさを演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で安全に配慮している。また、トイレの位置が分かりやすいよう大きく表示したり、浴室内では、自力で立ち上がりができるよう手すりを増やすなどできるだけ自立した生活ができるよう努めている。		